

■ 運動会では、次のような障害事例（小学生）があります。

（学校事故事例検索データベースより 平成17年～24年）

障害種	学校種	被災学年	性別	発生状況
外貌・露出部分の醜状障害	小	3	男	運動会の昼休み時間、校庭の隅で友人と遊んできたときに口論となり、友人が持っていた水筒で、額の辺りを殴られ、負傷した。
歯牙障害	小	4	女	全校生が体育館でミニ運動会をしていた。目隠しリレーで本児童は目隠しをし、手を引かれながらゴールをした時に勢い余って体育館の壁に激突し、顔面を打った。その際に前歯を3本歯折し、鼻の打撲と鼻血が出た。
聴力障害	小	2	男	運動会昼食時に、走って手洗い場に向かった。約1mの高さに紐が張ってあったため、そのひもが前額部に触れてしまいコンクリートの段差につまづいて転倒した。その時、左耳付近を強く打った。
せき柱障害	小	4	女	体育大会に向けての全体練習後、全員で石拾いをしている最中、担任が誤って後ずさりをしてきて本児童につまづき倒れ掛かった際、右肩より胸部にかけて圧迫された。

※ その他の事例についても「学校安全 Web」【学校事故事例検索データベース】より閲覧できます。ご利用下さい。

● 運動会の練習は長時間となるため、熱中症になりやすく病院に搬送される事例も増えています。

■ 運動会に限らず、日々の生活の中で危険を予測し回避する習慣（意識や態度）を身につけることで、事故を未然に防ぎ、被害を最小限にできます。 以下の内容を参考にして下さい。

- (1) 自分の教室を見回してどんな危険があるか想定することが、危機管理の第一歩。
- (2) 気がついたらすぐに実行する。
- (3) 危険を予知する鋭い感覚を磨いておく。
- (4) 危険に対する正しい判断力・知識・行動力を身につける。
- (5) 「まあいいか」の心のゆるみが事故を招く。
- (6) 保護者と連絡を取り合って信頼関係をつくっておく。
- (7) 事故の後の初期対応によって、その後の展開が大きく変わる。
- (8) 日常的に安全に関する指導をきちんと行い、記録しておく。
- (9) 実践的な計画を作成し、実地踏査はしっかり行う。
- (10) つねに児童の所在を把握しておく。
- (11) 緊急連絡体制を見直し、いつも目に付くところに掲示しておく。
- (12) 定期点検や、安全点検などの決められたことは、必ず実施する。

「学校の管理下の災害 平成25年版」
小学校における事故防止の留意点より抜粋